

# 各自治体などから注目されるESG投資基盤整備機構

## 投資先として有望

### 今年の1月31日に設立

地方創生は緊急の課題。それを資金面、人的面から支援していくという組織が一般社団法人ESG投資基盤整備機構。地方自治体や公益財団法人などのテコ入れに大いに期待されよう。

私は一般社団法人ESG投資基盤整備機構の代表取締役社長として、地方創生に貢献するべく、ESG投資の推進を目的として設立しました。現在、地方自治体と連携して、地方創生事業を担っています。

ESG投資の推進は、地方創生に貢献する重要な手段です。ESG投資は、環境・社会・ガバナンスの観点から、企業の持続的な成長を促すとともに、社会全体の持続的な発展に貢献します。

問題は、大きなカテゴリーで分けると、少子高齢化・人口減少・耕作放棄地・空き家対策・インフラの老朽化・財政難など多岐にわたる課題を抱えています。地方自治体は、これらの課題を解決するために、ESG投資の推進を重要な課題として取り組んでいます。



### 十勝発SFC発足

農研機構は3月24日北海道十勝発SFC(通称:十勝発SFC)を発足させた。これは北海道における農業産出額の2割を占める十勝地域において、国立大学法人帯広畜産大学及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構との連携体制を基軸に、「農業・食品版のSociety 5.0」の実現を加速させることにより、畜産物の生産性及び収益の向上を目的とする。

農研機構は、3月24日北海道十勝発SFC(通称:十勝発SFC)を発足させた。これは北海道における農業産出額の2割を占める十勝地域において、国立大学法人帯広畜産大学及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構との連携体制を基軸に、「農業・食品版のSociety 5.0」の実現を加速させることにより、畜産物の生産性及び収益の向上を目的とする。

### 安岡正篤氏の名言

多くの政治家や財界、修養の書というものが、人の精神的指導者や意見を述べたものがある。安岡正篤氏の名言、真の教養とは、人類の偉大な著作に、有する偉大な著作に、親しむことにより得るものである。そこで昔から優れた定評のある良い書物を少しづつ読むことによって、天地の間の教養の書、人間としての教養の書、人としての教養の書、親や師友のお陰、環境に支配される。一人の人間の死後に残り、思い出たくなるのは、地位でも財産でも名譽でもない。その人の心・精神・言動である。

### 基腐病の勉強会

さつまいも基腐病は沖縄、鹿児島、宮崎、熊本、福岡、長崎、高知、静岡県、岐阜県、群馬、茨城で発生している。農研機構では鹿児島県と連携して、さつまいも基腐病対策を行うことになっている。このため、さつまいも基腐病勉強会を開催し、講師は横山和成(正大学特任教授、松本聡(東京大学名誉教授・日本土壌協会会長。主催はNPO法人地球環境開発研究会、共催として合同会社アース21、株式会社電子資材開発研究所、株式会社未来創成ジャパン、イケアセツトマネジメン、小田倉ファーム。

### ボランティアイア募集

アジア環境コンプ水揚げ作業。NPO法人アジア環境整備機構は、佐藤泰夫理事(長・東京都杉並区高円寺南5-2-12)は、横浜の金沢漁港漁師の方たちの協力を仰ぎ、コンプの



福井県予算決算特別委員会で質問する長田議員

### へり観光で空港活性化

#### 福井県議会 長田光広議員が質問

アクティブシニア層の増加に伴い、NPO法人元氣農業開発機構の長田光広議員が10日に開かれた福井県議会特別委員会で質問に立ち、福井空港の活性化、県内の観光地活性化を図る上でへりコブの活用について、長田議員は「福井空港を拠点にしたへりコブを、県では港湾空港、交通

まわりの、観光誘導、危機対策・防災、未来戦略の5課題を軸とする。56年での老朽化が進んでいる福井空港ターミナルビルについても、今後のあり方を検討していると、長田議員は以前から言っていたへりコブについて、「恐竜博物館などの観光地に観光客を

へりコブの活用は以前から言っていた。へりコブは、島にヘリコプターで行って降りると、交番に変な物が落ちてきたと駆け込んだという話もあるほどだ。将来、空を走るタクシーなどの期待も高まる。今回の長田議員の提案は地域活性化に結び着けば、期待されるものだった。

この計り知ることのできないお陰をしみじみと感じとり認識する、これがいわゆる恩を知るといふことである。そこではじめて理性や感情を持った人間になるのである。環境に支配される。一人の人間の死後に残り、思い出たくなるのは、地位でも財産でも名譽でもない。その人の心・精神・言動である。